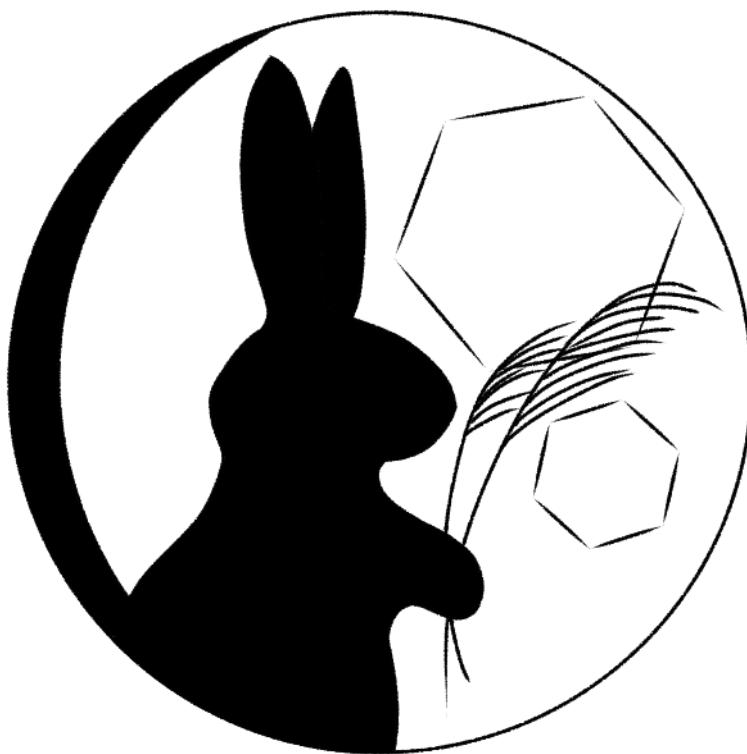


かげぼうし

令和7年 9月 創刊号



狐鶴堂

童心にもどるための謡

そういうものがあったって良いと思う
という気持ちで、
原風景や幻想を書き残すことにした。

これから生まれる童謡たちは、
季節の背後に伸びてしまった、
さみしいさみしいかげぼうし。

青いもの

青いもの なあに

お昼の日陰のガラス窓。

青いもの なあに

お屋根の下の水たまり。

青いもの なあに

お椀の中のチリンチリン。

青いもの なあに

忘れものしたお月さま。

おねぼうカウベル

食べてすぐ寝た雌牛の上に
おてんとさまが 顔出した

仲間が遠くに見えたので

どつすどつすと駆けたらば

首のカウベル甲高く

かんからかんから叫び出す

おさわがせ

あわて雌牛のカウベルが
かんからかんから叫ぶ日は

遠くの牛も驚いて

火事か 嵐か 狼か

からだも目玉も白黒させて
かんからかんから走り出す

本誌に収録された詩の無断使用および無断転載を禁ずる。



童謡小冊子「かげぼうし」創刊号

発行日：令和7年9月13日

発行・著：入山夜鶴（狐鶴堂）

X(旧Twitter)：@812_iri

Mail：yaits_bngk @ outlook.jp

Portfolio：potofu.me/812iri →

